

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4372900698		
法人名	社会福祉法人 東泉会		
事業所名	グループホーム氷川(もみじ)		
所在地	熊本県八代市東陽町南762-1		
自己評価作成日	令和6年10月 日	評価結果市町村受理日	令和6年11月26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/43/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ワークショップ「いふ」
所在地	熊本県熊本市中央区水前寺3丁目15-1
訪問調査日	令和6年10月10日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

恵まれた自然環境の中で四季を感じながらゆったりとした時間を過ごすことができる。また、園内には広い庭があり季節の移り変わりを感ぜられます。畑やプランターに野菜を育てて収穫の楽しみがあり、献立を皆様で考え直ぐに料理を行い四季の野菜も味わっています。コロナが5類になり、少しずつ母体施設や地域との交流・行事も参加出来ています。ご家族との交流や行事も出来てきています。医療面においても母体施設や地域の医療機関と密に連絡を取り連携出来るように努めています。個人においては、ご本人の希望や要望に応じて外出やドライブに出かけたり、ご家族の思いにも寄り添いながら対応や環境作りにも努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームでは、「残された能力を活かし喜びと自信を」の理念のもと、できることはできるだけ自分で行ってもらよう、また、それぞれの能力に応じて色々な役割を行えるよう、介護計画にも組み込み、働きかける支援を大切にしている。法人との連携が密であり、各種委員会・年間の研修・防災シュミレーションなどを法人全体で行う他に、法人全体をカバーするオンコール体制が整備されており、ホーム入居者の緊急時にも対応している。また、コロナのクラスター発生時には特養の多くの職員の応援を得るなど、連携・協力体制が築かれている。職員は、地域行事やドライブなどの外出支援、カラオケや塗り絵・特養で開催される「ひかわカフェ」への買物・毎月の昼食会・おやつづくり等、入居者が楽しく暮らせるよう工夫しながら、穏やかな日常を支援している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	見える所に理念を掲示し、「個性の尊重」「ゆったりした生活」「残された能力を活かし喜びと自信を」を念頭にケアに努めている。特に自立支援や役割を持った生活に力をいれ、職員と共同で作業を行う事で役割を持ち生活ができるような取り組みを行っている。	理念は玄関や事務所など目につきやすい場所に掲示し、毎日、朝のミーティングで唱和して共有を図っている。できることはできるだけ利用者自身で行ってもらよう、食事・排泄・入浴等生活の各場面で自立支援に力を入れている。また、それぞれの能力に応じ、食事の盛り付け・茶わん洗い・洗濯物たたみ・草むしり・掃除など、一緒に行えるよう働きかけている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナが第5類となり、徐々に地域の行事も再開されてきている為、法人施設としては地元主催の夏祭りに参加し地域との交流は図れている。町の行事に参加できない場合でも、ケーブルテレビにて視聴するなどし、地域とのつながりを支援している。	地域行事が徐々に再開されており、夏祭りには職員が出店を出したり、文化祭に作品を出展するなどして地域との交流を図っている。ケーブルテレビで小・中学校の運動会や夏祭りなど、ほとんどの地域行事が放送されており、入居者は行事に参加できなくてもテレビを見ることで地域の様子を知ることができている。入居者が参加可能な地域行事には、積極的に参加したいとしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	併設の居宅介護支援事業所が行う介護教室に参加したり、職場体験の受け入れを法人として行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に対面での開催が行えており、利用状況・活動報告・事故報告・身体拘束適正化委員会を行い、参加者からの質問・ご意見を頂いている。また、電話での質問や意見も受けている。	地域代表、有識者、市担当者等を委員として、2ヶ月ごとに対面での運営推進会議を再開している。会議開催の通知は、入居者と一緒に委員に届けている。現在、家族代表委員が不在であり、選任について働きかけを行っているところである。会議は、入居者状況・活動状況・職員研修等の報告の他、事故・虐待防止・身体拘束廃止等の事例検討報告を行い、質疑応答・意見交換を行っている。	ホームの課題や、地域との協力体制の構築など、テーマを決めて話し合うとさらに良いと思われる。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議にて、実情や取り組み等を報告し、ご意見を頂いたり定期的な連絡は行っている。市町村担当者とは、密に連絡を取り合い協力関係を築くように取り組んでいる。	市担当者は運営推進会議に参加している。提出書類等は市に持参してできるだけ連絡を密に取るようにしている。運営に関する質問や相談などは、都度気軽に行うことができ、協力関係が築かれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人内に設置されている身体拘束適正化委員会にて指針とマニュアルを定め、定期的な勉強会と事例検討会を行運営推進委員会での報告や意見交換を行っている。会議の内容は、回覧しスタッフへ周知を行っている。	法人全体で3ヶ月ごとに身体拘束適正化委員会を開催しており、各部署で検討した事例について委員会でも再検討し、対策を共有している。また、法人内研修に職員はwebで参加し、参加後は研修内容について出される問題に回答することで学びの確認を行い、身体拘束をしないケアに努めている。入居者の行動抑制に当たるような言葉掛けがみられた際は、お互いに注意し合う環境ができています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内に設置されている虐待防止委員会にて勉強会と事例の検討会を開催。内容については回覧にてスタッフへの周知を行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	スタッフ勉強会を行ったり、外部の勉強会に積極的に参加するようにしているが、活用出来る機会は今のところはない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時・改正時には、説明を行い同意書を得ている。また、その後も面会時や電話でも疑問点や意見をいつでも受け取るように取り組んでいる。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	法人全体で家族会が設置されているが、コロナ感染対策にて、家族会の活動・参加が少なくなってきた。今年度は数年ぶりに防災シュミレーションへ家族会の参加があり、意見交換会が開かれた。	現在、面会は各居室で行うことができるようになり、訪れる家族も多い。面会時やプラン更新時、電話等で入居者の近況について報告し意見・要望等を尋ねているが、要望等はほとんどない。5月の防災シュミレーションには数年ぶりに家族の参加も得るなど、家族とのコミュニケーションを図る機会は多くなってきた。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的に職員から業務に関する意見を貰い、業務改善につなげている。また、ケアを行う上で困りごとがある時は、職員間で話し合いを行いより良いケアを検討している。	カンファレンスは都度、その場にいる職員で行っている。また、月1回のユニットごとのスタッフ会議では、カンファレンス・業務改善・行事等について話し合い、ミニ勉強会を行っている。自らは意見を言い出せない職員のために、「もみじ」では半年ごとに「思いつきシート」に何でも書いてもらったり、「りんご」では管理者からできるだけ問いかけを行うなど、意見を引き出す努力をしている。出された意見・提案等は検討し行ってみて、よりよい運営やケアに繋げている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事評価制度を導入されてっており、各自目標設定を行い、取り組みを行っている。定期的に職員の意見を汲み上げ、業務改善に取り組んでいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内での、定期的な勉強会へ参加し知識の習得。実技については現場にて実技指導。年1回職務チェックリストにて評価を行っている。クリアできていない項目に関しては、次年度の人事評価にて取り組みを行う。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ブロック会議での勉強会へ参加し、同業者との交流を図っている。また、八代ブロック会のあり方について管理会議も行われている。意見交換などは、電話やファックスなどでも行っている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前のケアマネからの情報を元に家族や利用者からの要望も聞きながら利用者の心身の状況や想いを酌める様にしている。また、定期的に家族や利用者の希望を聞き取りしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族や利用者の要望や不安な想いを傾聴、意見しながら家族や利用者との信頼関係を築けるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居の際に、ケアマネからの情報と聞き取り内容や身体の状態より必要な支援を検討している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様の、残された能力を活かし、食事の準備や掃除、洗濯物干し・たたみを職員と共に役割を持った生活ができるよう取り組みを行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナも5類となり、面会の機会も増えてきている。面会時には、近況を報告し必要に応じてケア方法を考える機会を設けている。食事が入らなくなった方に対しては、好みの物を差し入れしてもらったりしながら対応している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	機能の低下やコロナの影響で外出の機会が少なくなったが、故郷訪問(ドライブ)等を取り入れながら支援している。また、書類配布時には利用者にも同行してもらい馴染みの場所との関係が途切れないように努めている。	希望に応じてドライブで我が家を見に行ったり、運営推進会議の開催通知を入居者と一緒に届けたり、隣接の特養に知人がいる人は、特養を訪問したりホームに来てもらうなど、折を見て知り合いの人と触れ合う機会を作っている。また、ケーブルテレビで放映される色んな地域行事を視聴することで、馴染みの人や場所との関係継続支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	トラブルが発生しないような、食事時の配置を検討したり、利用者同士の会話がスムーズに行えるよう間に入り対応している。また、気分転換に数名で苑内散歩や畑に行ったりしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	法人内の特養へ入られる方が多い為、退所後も訪問し声をかけたり、スタッフとの関りをもち、必要に応じて経過をフォローしている。また、家族からの相談にも傾聴し意見出来るように努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員側からの声掛け誘導ではなく本人様の意向や想いを色んな場面で尋ねるように取り組んでいる。生活会話の中でも要望や希望を聞き出せるように心掛けている。	外に行きたい、買い物をしたいなどの入居者の要望は、できるだけ叶えるよう努めている。自分から思いを表現できない人には、yes/noで答えられるように問いかけを工夫したり、表情や仕草で推測し、意向の把握に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前のケアマネの情報や、入所時の聞き取りにより、把握に努めている。家族の思いも聞き取り必要としている支援を家族と一緒に考え見極めるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	朝・夕の申し送りや、バイタルチェックまた、ケース記録を記入する事でその日の状態や過ごし方をスタッフ一同が把握出来るように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	朝・夕の申し送りや、その時々意見やアイデアを話し合い、ご本人からは、日々の暮らしの中で色々な場面で聞き取りを行っている。ご家族様へは、面会時や電話で意見や思いを聞くようにしている。	モニタリングは、毎月計画作成担当者が実施し、基本的に「もみじ」では3ヶ月ごと、「りんご」では半年ごと、及び変化があった場合はその都度、計画案を作成してカンファレンスで検討し、計画の見直しを行っている。入居者の残存機能を活かした暮らしの支援、また、入居間もない方は職員との信頼関係を築き、ホームに早くなじめるように、等を大切に計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	気づきやアイデアは、ケース記録や申し送りノートに記入し必要に応じてその都度話し合い情報共有を行っている。介護計画は、6ヶ月に1回見直し状態に応じてその都度の見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	併設施設でもあり、ホームとしても協力体制を取っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご本人の要望や希望に応じて買い物の外出支援を行っている。また、四季の花見学やお寺参りも行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所者にご本人様と御家族様の意思を確認し、かかりつけ医との安心出来るような関係作りに努めている。また、緊急時にも相談出来る体制が整っている。	かかりつけ医は、入居時に本人・家族の意向を確認している。現在は1名以外は特養の嘱託医である協力医をかかりつけ医としており、毎月1回定期回診を受けている。法人の3名の看護師が、当番制で24時間オンコール体制を整え、かかりつけ医と密に連携を図り、適切に指示を得て医療受診している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師資格を持つスタッフがシフトの中で勤務しており、対応出来る体制がある。また、利用者様の基本情報・お薬情報については、ファイルし常時確認出来るようにしている。必要に応じて地域の医療機関とも気軽に相談出来る関係性に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、医療機関に情報提供し入院中も医療機関と常に連絡を取り退院にむけた対応を検討し御家族様や医療機関と話し合い、退院後の支援に結び付けている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時、ホームとしての考え方と言葉で面談説明行い意向を踏まえながら御家族様や医療機関と検討する様に努めている。全体勉強会に参加しスタッフの意識の向上に努めている。施設の委員会では、事例検討開催し全体に周知している。	入居時に、ホームの看取り指針について説明し、同意を得て終末期の在り方についての意向を確認している。重度化した際には状況説明を行い、再度意向を確認している。本人・家族の希望があればホームで看取りを行う方針である。法人全体の勉強会や、「ターミナルケア委員会」での事例検討の報告など、看取りケアについて学んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	対応マニュアルを見やすい場所に張り出し全職員が確認出来るようにしている。夜間は、オンコール看護師が対応する体制になっている。年1回併設施設と合同で緊急処置講習を氷川の消防署より来て頂き行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練を併設事業所にも協力してもらい行っている。また、緊急時連絡網を作成し被害時には、一斉ラインワークス送信行い、当番制にて夜間の泊まり込みを取り決めている。	年2回、特養からの応援も得てホームで日中・夜間想定火災訓練を行っている。また、防災シュミレーションとして、水害を想定してスポーツセンターへの避難・炊き出し・簡易トイレ設置など、家族も参加して実践的な訓練を実施している。	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	配慮に欠ける様な声掛けや対応については、その都度注意指導行っている。また、一人一人に応じた声掛けや対応、状態変化での声掛けにも配慮している。利用者様の人格を尊重する様に努めている。	言葉遣いに配慮しており、特に排泄支援の場面では、羞恥心を傷つけない様な言葉かけ、声のトーンも意識して、さりげない誘導を行うよう留意している。排便状況の確認においては、記号と数字での表示を定着させている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	お茶の時間・入浴時間・苑内散歩などの流れに沿ってゆっくりと希望を尋ねて決定出来るようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の体調や気分に合わせて活動を提供出来るようにしたり、ゆっくり過ごせる時間や部屋で一人になる時間も大切にしている。また、一人一人の趣味を活かせる様に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時は、ご本人様に選んで頂き思い思いに気に入った服を着られたり一日に何度も着替えられる方もおられる。ただ、季節にそぐわない服や同じ服装が続く時は、声掛け行い一緒に選んだり必要に応じて支援を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	外部食を導入しているが、利用者様の希望や採れた季節の野菜でアレンジしている。台所に関わって頂いたり、台ふき・配膳・下膳出来る範囲でのお手伝いをお願いしている。	朝食は早出の職員がつくり、昼・夕食は外注で、チルド食を湯煎して提供している。入居者の希望や頂き物の食材利用などで、メニューを柔軟に変更している。毎月、1日・15日は朝食がパンの日、月1回ホームで昼食をつくる昼食会、みょうが饅頭・盆団子など季節行事にあわせてのおやつづくりなど、美味しい楽しい食事となるよう、様々な工夫が見られた。当日は炊き出し訓練も兼ねて芋煮会が行われており、野菜を切ったり、談笑しながら食事をする入居者の楽しい暮らしの様子が見られた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	外部食取り入れ計算された食事を提供している。食事量は、個別に記録を取り普通食やソフト食を提供している。ただ、食事量少ない方は、御家族様に相談し好きな物を購入して頂いている。水分は、時間毎以外にも希望に応じて提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアは、習慣になっている。義歯の洗浄も毎回行って頂き、ポリデント洗浄も毎日行っている。ブラシも本人の口腔状態に合わせ選定している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定期的に排泄に関するアセスメントを行い、排泄介助時間を検討したり、内服の検討を行い、個別ケアに努めている。また、言動や行動のサインを見逃さずトイレで排泄出来るように努めている。	日中はほとんどの入居者が布パンツ使用で、時間や仕草を見てトイレ誘導し、排泄の自立支援に努めている。法人で排泄ケアについての研修も行われている。一人ひとりにとってより適切な排泄用品になるよう、カンファレンスで細かく検討し、コストダウンにも配慮している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	定期的に、排便状況の確認を行い、原因の追究を行い、内服の見直しや、運動療法を取り入れることで、排便コントロールが出来る。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴時は、声掛けにてご本人の希望を聞きながら時間や曜日の変更を行っている。	入浴は基本的に週2回実施している。季節に応じて柚子湯や菖蒲湯なども行っている。マンツーマンで職員と会話が弾んだり、歌を歌う入居者もあり、入浴が楽しい時間となるよう工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の生活習慣に合わせて声掛け行なったりご本人のタイミングで行かれる時は付き添い見守り行います。休息時は、換気や温度に注意しながら個人に合わせています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報を職員が確認できるようファイルに閉じている。又、薬の変更や臨時薬が処方された際は、内容・服薬時間・注意事項や観察点を連絡ノートに記載し伝達。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の残存能力に合わせ、食事の準備や掃除等に参加し、役割を持ち生活できるよう支援している。又、昼食会・おやつ会・ドライブ・買い物等を企画し気分や楽しみづくりを支援。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	季節に合わせて、外で過ごす時間を設けたり、ジャガイモ堀や苑外への散歩や買い物・ドライブを行っている。	日常的に散歩に出かけたり、ホーム前の芝生の庭で体操をしたり歌を歌ったり、お茶をしたりと日光浴を楽しんでいる。また、初詣、あじさい・彼岸花などの見学、ドライブや買い物など、個別の要望も取り入れながら積極的に外出支援に取り組んでいる。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理が出来る方に関しては少ない金額ではあるが本人が管理をされている。定期的に買い物の支援を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙を書かれる方はおられないが、電話をしたいと申し出がある際は支援を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	苑庭には、木々や季節の花も植えてあり、玄関やテーブル、洗面台に花々を置き季節を感じて頂けるようにしている。また、状況に応じて常に換気や掃除を行い不快感なく過ごせるように努めている。	リビングには、テーブル・椅子・ソファ・テレビ・仏壇などが配置され、今はハロウインの飾りつけが施されている。廊下には、季節の貼り絵・活動の写真などが沢山掲示されており、楽しい雰囲気となっている。当日は芋煮会が行われ、「もみじ」は特養のホールで、「りんご」はホームのリビングで、入居者が自由に楽しく過ごす様子が伺えた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	談話室にもソファ設置し好きなように座って頂き、談話室以外にも、数か所ソファを設置し、好みの場所で過ごせるように工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時に声かけは行っているが、家具等の持ち込みは少なく、設置されたベッドとタンス程度である。殺風景とならないよう写真等を掲示している。また、テレビが好きな方は持ってこられている。	居室には大きな収納が設置されており、整理ダンス・テレビ・ソファ・歩行器・ポータブルトイレなど、配置している。「もみじ」では、壁にホームでの活動の写真や家族の写真、誕生日カードなど沢山掲示され、楽しい雰囲気となっている。「りんご」では、掲示物は少ないものの、すっきりと整理整頓された印象である。それぞれに居心地の良い部屋づくりの工夫が見られた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室入り口には見える位置に表札を設置。トイレや風呂場等の共用スペースも表示。廊下も障害物をおかないよう常日頃から整理整頓を行っている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

【事業所概要(事業所記入)】			
事業所番号	4372900698		
法人名	社会福祉法人 東泉会		
事業所名	グループホーム氷川(りんご)		
所在地	熊本県八代市東陽町南762-1		
自己評価作成日	令和6年9月20日	評価結果市町村受理日	令和6年11月26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/43/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ワークショップ「いふ」
所在地	熊本県熊本市中央区水前寺3丁目15-1
訪問調査日	令和6年10月10日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

恵まれた自然環境の中で四季を感じながらゆったりとした時間が過ごせる。また、苑内には広い庭、菜園、いくつかのクラブ活動もあり趣味を活かした生活を送ることができる。中止していたクラブ活動も感染状況を見ながら少しずつ再開しているが、一進一退。いつもならば年間を通して母体施設や地域との交流、行事も盛んにおこなわれています。医療面においても母体施設とともにオンコール体制を整備し、医療機関とも密に連絡を取り、連携できるように努めています。また、個人においても希望や要望に応じた対応、環境づくりにも努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人及びホームの理念を玄関に掲示し、毎朝唱和し共有している。ケアでの問題点等があった時は適宜にカンファレンスを行い問題解決に努めている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域との交流は新型コロナウイルスの影響もあり、自粛している。ケーブルテレビで放送される、地域のお祭りや運動会などの催しを見ることで地域との交流を支援している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	併設の居宅支援事業が行う介護教室に参加したり、職場体験の受け入れを法人として行っていたが、現在は中止となっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナウイルス感染状況を見ながら、対面での会議や書面での会議に変更し実施している。参加者一人一人に意見・質問・感想等を聞き出すように心掛けている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議や書類配布の際、介護保険手続きなどの際に気軽に話しが出来るような関係を構築し、疑問などがあれば直接出向いたり電話で問い合わせたりしている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人及びホームで勉強会を行っている。また運営推進会議後に身体拘束適正化委員会を開催し事例検討会を実施している。結果については全職員に周知行っている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人及びホームで勉強会を行っている。法人の委員会で事例検討会を実施している。結果については全職員に周知行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	グループホーム連絡会のブロック単位でおこなっている勉強会には極力参加はしているが、活用できる機会が今のところなく、そのためか理解も机上のものにとどまっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、改正時に説明し同意を得ている。都度疑問点などないかを確認している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	定期的に電話連絡や家族が来訪時に利用者の近況を報告している。面会に関してはタブレットを使用しリモートとで行っている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	適宜にスタッフ会議やカンファレンスを開催し、入居者のケアの対応・業務改善・行事について検討し、より良いケアが出来るようにスタッフ全員で検討している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の職員に合わせた勤務形態に努めている。研修や各資格習得に向けての勤務調整を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月のホームの勉強会、八代部会の研修会、外部の勉強会や研修参加時は内容を共有できるように発表する機会を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	八代部会の研修会、親睦会などが開催される月は、コロナウイルス感染状況に応じて参加行っている。参加時は他施設職員との意見交換を通して、質の向上に向けた取り組みを行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前にケアマネジャーや施設職員、家族からの情報を聞き取り、それを基に利用者の要望を聞き取りながらハード面やソフト面の整備を行い安心して生活できるように取り組みを行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	要望や不安な思いを傾聴、意見し、可能な限り解決できるように努力している。また、適宜に家族来苑時や電話報告にて情報報告をおこない、信頼関係の構築を行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	前担当ケアマネや家族より現在の本人の状態や病歴等を聞き取り、必要としている支援を見極めている。また、病気の状態に応じて、主治医に相談し早期に対応できるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	アセスメントを通じて「今していること」「出来ること」を把握するよう努め、出来ることはして頂き、褒め称えお礼を言うよう心掛けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	マメな状態報告や、家族への書類配布の際に可能な方は利用者にも同行していただき、また季節代わり際には不要となる衣類を引き取っていただき衣替えも出来るだけ参加して頂いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	新型コロナウイルスの影響もあり、地域の行事には参加できていないが町の文化祭への展示品の出品や数名でのドライブは実施している。面会はリモートで実施し関係が途切れないように支援している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	対人関係の相性などを見極め、席の配置など配慮し対応している。また、孤立しないように職員が間に入り話題を共有できるように努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	相談時は快く応じ、問題解決等支援を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活歴、日常会話、訴えなどから、本人や職員と話し合いを行い、思いや意向の把握に努めている。意向が出た際は希望に添えるように努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	前ケアマネや前事業所から情報を集め、契約時に家族から生活歴などの聞き取りを行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日勤時、夜勤時の申し送りやケース記録を記入することにより、状態把握に努めている。心身状態の変化やケアの変更があった時は申し送りノートに記入し周知に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	スタッフ会議や適宜にカンファレンスを行い、意見や課題を話し合いをおこなっている。本人からは日々の暮らしの中で聞き取りを行っている。また家族へは面会時や電話での聞き取りを行っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録もIT機器を活用し、情報の共有や計画の見直しに役立てている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	可能な方は書類配布時に郵送ではなくご本人と一緒に頂いたり等個別のニーズに対応している。また、併設施設とも連携しホーム単独で対応できない		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	新型コロナウイルスのため、殆ど実施できていないが、買い物やドライブ、個別に家族協力のもと、墓参りや帰省など可能な限り支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に本人と家族の意向を確認し、かかりつけ医との安心できるような関係作りに努めている。日々の状態報告も行っており、緊急時の対応についても定期的に家族の意向を確認している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師免許を持っている職員も常駐しており、状態変化時は密に連絡を取っている。夜間帯の状態変化時など、すぐに対応ができるようにオンコール体制を整えている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には医療機関へ情報を提供し、退院時は医療機関、家族との話し合いの場に同席し、退院後の支援に結び付けている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化や終末期の対応についての方針を説明し、意思の確認を行っている。職員に対しては定期的な勉強会を開催し看取りの理解を深めている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	対応マニュアルを作成し貼り出している。主任、看護師にはいつでも連絡できる体制を整えており、急変時、事故発生時に対しての備えをしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、日中・夜間想定で避難訓練を実施している。併設の特養の協力を得ている。緊急連絡方法はLINE WORKS活用し一斉送信おこなっている。災害時は勤務形態の変更や法人の協力を得て、入居者の安全確保に努めている。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	配慮に欠けるような声掛け、対応についてはその都度注意している。一人一人に応じた声掛けや対応を行い人格を尊重できるように努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員の先取りした行動にならないように、本人の意見を尋ね、時には見守る事で本人の意思決定できるように心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の日課は大まかに決まっているが、その日の一人一人の体調や気分に合わせて、無理なく自分のペースで生活できるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴の際は本人に聞きながら、着替えを用意するようにしている。毎朝、整髪・髭剃りの声かけや支援を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	朝食はホームで準備、昼食・夕食は委託業者のチルド食を温めて提供している。毎月1日・15日の朝食はパンの日としている。毎月ホームで昼食作り・おやつ作りをおこない、出きる範囲内でのお手伝いを行っている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	外部食を取り入れ、計算された食事を提供している。食事量は毎食記録を行い、確認している。必要に応じて饅頭やお菓子などを提供している。水分は食事時でも好みの飲み物を提供し水分量を確保するように支援している。希望時は都度、提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの声かけ、介助おこない、口腔内の確認を行って。義歯は毎食後洗浄し、週2回洗浄剤で消毒している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表で排泄パターンを把握し、さりげなく声掛けや誘導を行っている。各個人に合わせて、排泄用品の検討をおこない、快適な排泄支援に努めている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の体操やレクリエーション等で運動を行っている。水分摂取の少ない入居者には好みの物を提供したり、適宜に水分摂取を促すようにしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的に週2回の実施のため、最終入浴日の長い入居者から、日程を組み入るようにしている。本人の体調や希望に沿わない時は日程を変更し対応している。季節に合わせて、ゆず湯やしょうぶ湯などを提供し楽しんでいただけるようにしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中、適度に体を動かすことで、夜間の安眠確保につながるよう支援している。日中は一人一人の体調や気分に合わせて、活動・休息などの支援を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報を全職員が閲覧できる場所に整理、保管している。薬の変更や追加時には申し送りノートにて周知を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	新型コロナウイルス感染予防のため、慰問や全体での行事は中止となっていた為、部署内で出来る催し物や数名でのドライブを実施し、気分転換などの支援を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	新型コロナウイルス感染予防のため、外出の機会は少なくなったが、数名でのドライブなどの支援は実施している。天気が良い時は敷地内の散歩や畑を見たりして絵気分転換を図っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的に責任者が管理し希望時や用途に応じて使えるようにしている。使った内容も記録し家族にも使い道を説明している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を希望する方はいるが難聴にて家族とのやり取りができない為、職員が内容を聞き取り代弁している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に応じた、花々や貼り絵を掲示し季節を感じていただけるように支援している。また状況に応じて、換気、清掃、空調管理を行い居心地のよい空間づくりをおこなっている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	談話室にはソファを設置。本人様の意思を確認し、それぞれ好きな場所で過ごしてもらうようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内の家具類は本人様の意向を聞きながらは配置している。また、家族との写真や行事時に撮影した写真、ぬいぐるみ等を飾り、居心地のいい空間作りに取り組んでいる。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室入り口には表札を付け、トイレ、風呂場には案内板を設置している。廊下、トイレ、浴室には手摺を設置している。		